

— 函館見学会報告 —

平成 22 年の話題の建物、函館奉行所を見学してきました。1泊2日でしたがお天気にも恵まれ、他にも山の手、ベイエリアと見所も多く充実した研修会でした。見学先を報告します。また、函館在中の井上会員とはパースセミナー・サマーパーティーに続く交流となりました。



函館奉行所

☞：清水 昇

8月26・27日は社団法人インテリア産業協会主催の箱館奉行所見学バスツアーが実施されました。参加者は残念ながら少数でしたが、私にとって実りの多い小旅行となりました。再建された箱館奉行所は、純和風の大屋根の上に太鼓櫓が乗った形で、私的には「違和感」を感じましたが、当時はその形が権威の象徴だったのでしょう。江戸末期に蝦夷地の防衛と統治のために当時、箱館山の麓にあった奉行所を五稜郭に移築したが、箱館戦争の2年後、わずか7年で解体される短い運命でした。しかしその後、多くの人の努力で140年の年月を経て、ようやく再建されました。規模は実際の1/3に縮小された再建でしたが、外観から受ける印象は当時の威厳を充分感じさせてくれます。インテリア的には、綺麗すぎて当時の重たい雰囲気はありませんが、あと50年経てばいい感じが出て来るでしょう。



私の個人的な感想としては、間接照明の多さと明るさが気になった事、非常口、火災報知器、スプリンクラー等の設置をしなくてはならない虚しさが残りました。

私はこの箱館奉行所見学で当時の人々の生き様について考える事ができました。日本の歴史上、最も混乱した時代でもある幕末から明治にかけて、この国の将来を心に描き、その時代を強く生き、そして戦死して行った人々の事を。五稜郭築城時に植えられ、悠然と林立して来た樹齢150年の「赤松」だけが歴史の生き証人として私に語りかけてくれたのです。



↑松の左側にお休み処があり、ここの備品は井上会員の製作

↑中庭から見る太鼓櫓

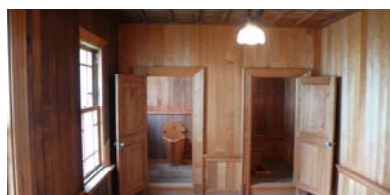
五島軒

ここには、撮影不可のギャラリースペースがあります。廊下やホールにも多くの美術品が展示されています。2階には行幸の折に8人でお食事をされた大広間、本当に大広間があります。壁・天井仕上げ、カーテンやバランス、市松模様の床など当時のままです。



伝統的建造物保存地区にある建物を利用したお店や、赤レンガ倉庫群のあるベイエリア

廁 格式・素材とデザイン



箱館奉行所

旧函館公会堂

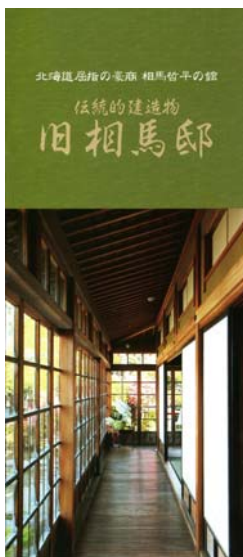
旧相馬邸

お伝え出来ないほど、まだまだ多くのポイントがあります。行って、見て、体感して下さい！

旧相馬邸

☞：中村 雅彦

明治41年の建物で当時の豪邸。計り知れない富を手に入れた人だと唖然としました。数々のコレクション、随所に見られる和洋折衷・匠の技が感じ取れ感動です。日本の歴史の中の人という感じで、中途半端な金持ちじゃない、現代では見当たらないほどの人ではないでしょうか。また、日本国の民間に西洋が導入された王道のインテリアを学べます。



旧函館公会堂

明治43年の建物ですが当時でこれだけのものはすごいと思います。豪商である相馬哲平氏が5万円の寄付をして工事費が5万8千円だ



ったということさら
にびっくりです。
建物はヨーロッパの
影響が多く見られ、
函館が港町だからこ
そと感じられます。



↑ 御座所



旧イギリス領事館

1859年(安政6年)から国際貿易港として開港しただけに色々な文化が建物から感じ取ることができ、歴史の深さが感じられます。当時の執務室から港を眺める様子を伝えています



二十間坂の女神様の今？ 追跡レポート



美観をそこねるとい事で撤去され台座だけがそのまま残る女神像跡。「今」をご主人に見せていただきました。今、ブルーシートに包まれ屋上で静かに横たわっ



ています。右手の屋根はRC造で建てられた東本願寺の大屋根で奥の教会は名前を忘れました？ハリストス正教会も改修工事中でよく見えませんでした。二十間坂を見ながらのビールは格別で、自由の女神様も寝ながらじゃなく立ってこの景色を見続けたかったと思います。



旧ロシア領事館

明治43年建築の赤レンガと白い漆喰の洋館です。歪んだガラス窓が印象的です。建物はだいぶ老朽化が進んでいて早く手を掛けないと？坂道がきつく、黙っていても下に降りてゆく感じでした。



高龍寺

函館では一番古い寺院です。彫刻のすばらしさが印象的です。写真に写っている3人もカメラのシャッターを押しているところ。これぞシャッターチャンス……。建物を写していたのに4人同時に写していた事になります。



中華会館

明治43年の釘が一本も使われていない純中国風レンガ造りの建物 三国志の武将・関羽を祭っている。屋根に止まるのは陶器製の鳥

